

FUJIEDA ROTARY CLUB

Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040

会長：柳原寿男 副会長：鈴木廣利
幹事：宮川邦光 副幹事：松葉隆夫



2004-2005年度
RIテーマ

ロータリーを 祝おう

100年の歩み

グレンE.エステス・シニア



富士山（焼津市田尻海岸にて）

[写真提供：櫻井龍太郎]

第1610回

CELEBRATE
ROTARY



<ソング> SING EVERYONE SING

<ソングリーダー> 青島 克郎君

会長挨拶

柳原 寿男君

どなたにも好きな数字、縁のある数字、こだわりの数字があると思いますが、如何ですか。パスト会長小西啓一君は、望月晃君が平成14年4月に発行された「坐花酔月」に寄せて、お二人とも「3」の数字に大変縁があると書かれております。私の場合は「33」です。1933年生まれの藤枝RC33代会長だからでしょうか。

（私はロータリーに入会して、今年で33年になります）という書き出しに惹かれて、一気に読ませていただいた文章があります。ロータリーの友2月号に「私のロータリー」と題して、第2830地区七戸RC石井淳夫氏の投稿は、大変共感を覚えました。以上、抜粋して掲載します。

（全世界には120万人以上の仲間がおりますが、皆さんはロータリーをどのように考えておられるでしょうか？

実はロータリーは、社会奉仕団体でも、慈善団体でも、寄付団体でもないのです・・・私は、このロータリーの原点は、職業奉仕と親睦にあると考えます。職業奉仕とは「われわれがその職業において、また職業を通して他人に幸せをもたらすこと」であり、その結果として「われわれに繁栄がもたらされる」というものであります。そのためにはまず親睦(仲良くすること)が第一であり、いかにしたらよりよい職業奉仕(他人を幸せにすること)ができるかを勉強するために、毎週例会を開いて集まっております。

さてロータリーの職業奉仕には「四つのテスト」

があります。

われわれロータリアンは、いつもこの「四つのテスト」に少しでも近づき、かつそれを実践したいと考えているものです。それは私たちがこの「四つのテスト」に少しでも近づこうと努力することにより、すばらしい、楽しい職場をつくることできると私は確信しているからであります。

「自分が幸せになりたいと思うなら、まず人さまを喜ばせることを考えよう。」今まで申し上げたことは、この一言に集約されることがわかりいただけだと思います。ロータリーは、このことを目指しているのです。

あの人と知りあえてよかった、あの人と商売できてよかった、あの人と一緒に仕事が出来てよかった・・・など常にこのように思い、このように思われる人間でありたいものです。これからも一人のロータリアンとして、ロータリー精神を大切に生きていくつもりです。）

以上、ロータリーの友、2005 Vol 53 No. 2より一部省略して掲載させていただきました。会員退会の原因や当クラブで問題とされる出席率の低下について、考え、話し合う必要があります。長引く不況や、会員の老令化による死亡や病欠が原因とも思われますが、前年に右へ倣えのクラブ事業の硬直化や、マンネリ化したプログラムと例会の在り方が、クラブの魅力を損なってきたのではと危惧するものです。

ロータリーの原点にかえて、職業奉仕と親睦と例会の、各々の意義とその解決、相互の係

ついて、大変参考になりました。

会員の皆様も是非原文をご一読下さい。

幹事報告

宮川 邦光君

- 国際ロータリー 2620 地区インターアクト小委員会青島克郎次年度委員長より「次年度インターアクト小委員会活動に関するお知らせ」が届いております。
- 静岡第5分区曾根ガバナー補佐よりIMについての文書が届いております。
- 国際ロータリー第2620地区新世代サミット実行委員会より新世代サミット募集要項が届いております。
- 国際ロータリー第2620地区ローターアクト小委員会鈴木委員長より第15回全国ローターアクト研修会報告書が届いております。
- 藤枝子どもと本をつなぐ会より平成17年度賛助会員登録のお願いと通信No17が届いております。

出席報告

松葉 隆夫君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
28 / 41 68.29%	35 / 41 85.37%

(1)欠席者(事前連絡とメーカーキャップをどうぞ)

○飯塚君 ○池ノ谷君 ○石垣君 ○後藤君

○松葉隆君 ○村松宏君 浅川君 板倉君

小西君 鈴木舜君 仲田晃君 成瀬君 望月志君

(2)メーカーキャップ者

岩田 規君(榛南)

ビジター

薮崎 宰一君(藤枝南)

スマイルBOX

松葉 隆夫君

- 卓話をします。よろしく。テーブルメイトDを代表して、いつも欠席ばかりですのでおわびのしるしで。 村松 英昭君
- 大変遅れて申し訳ありません。皆出席のスマイルです。 水野 義猛君
- 忘れていました。私も皆勤賞をいただきました。

ありがとうございました。

鈴木 廣利君

●娘の公演につきましては、クラブで度々紹介して下さいまして、有り難うございました。お蔭様で公演1ヶ月前ですが、チケットも完売できました。皆様のお力添いに感謝の気持ちでいっぱいです。有り難うございました。 仲田 廣志君

スマイル累計額 558,300円

テーブルメイトD卓話

『ミュージカルあれこれ』

村松英昭君

ミュージカルとは歌と踊りとお芝居で作り上げる物語です。1868年ブロードウェイで幕を開けた「黒い悪魔」が始まりといわれています。



ミュージカルといえば

CATS PROLOGUE.

この曲は「キャッツ」幕開けの曲です。この物語は月夜の晩に年に1度のネコの大舞踏会が開かれそれぞれのネコの過去、現在の人生を歌と踊りでつづっていく物語です。そして1匹のネコが選ばれ、天高く昇り永遠の生命を与えられます。選ばれたネコが娼婦ネコです。メモリーを歌いながら天に昇っていきます。

MEMORY

私はこの舞台を20前に観ました。ちょうど日航機が「おすたか山」に墜落した時でした。幕開けの時会場の通路にまでネコの目だけが光っていました。そして客席の通路をネコが行ききし、天井からもおりてきて大変びっくりしました。

このキャッツが日本にミュージカルを根付かせたと言っても過言ではありません。

私がミュージカルに興味をもったのは、学生時代に映画で観た南太平洋です。(1949年に舞台上で初演されました)第二次世界大戦中の南太平洋の美しい島々を舞台としたラブロマンスです。バリハイはことに有名な曲です。

SOUTH Pacific Overture

ミュージカルと言えば皆様よくご存知のWest Side Storyです

West Side Story Overture

あのジョージチャキリスのシャープな素晴らしい踊りは、彼を一躍スターダムにのし上げました。

この物語はシェークスピアのロミオとジュリエットのアメリカ版としてつくられたのは有名な話です。ロミオとジュリエットがバルコニーで愛をささやくシーン、ジュリエットが「おお、ロミオ様、ロミオ様、あなたの名はどうしてロミオなの」と語るところがあります。

ウエストサイドでは、下町のアパートのベランダでトニーとマリアが愛をささやき、名曲トゥナイトを歌っています。

TO NIGHT

この映画を学生の時観ました。あまりのすばらしさに次の上演時間までそのままいて、続けて2回観ました。

アメリカでは、国宝にしようとの話もでているようです。

私が観ましたミュージカルで一番感動したのは、12年前、帝国劇場で観ました「ミス・サイゴン」です。

Miss Saigon Overture

この物語は1975年ベトナム戦争の終わり頃、サイゴン陥落直前のサイゴンが舞台となっています。アメリカ人GIクリスがキャバレーで、その日が初日という17才のベトナム人女性キムに出会い、彼女を買い、一夜を共に過ごし、戦争で傷付いた心が彼女によって癒され、そして、お互い愛し合うようになり、二人はささやかに暮らしはじめ結婚し、幸せな時を過ごします。

幸せな時を過ごしている時の歌、

Sun and Moon (男と女神)

しかし、サイゴンは陥落し、アメリカ軍は急遽撤退、混乱の中、アメリカ人GIクリスはキムと一緒に連れて帰ろうと必死になって探すが、見つけることが出来ないまま、上官に無理矢理ヘリコ

その頃、昔の上官より、ベトナム人女性キムが生きていることを知らされ、クリスの子を生み育てていることも知らされる。ベトナム人女性キムがバンコクで働いている事を知り、会いに行く。

キムはクリスが迎えに来てくれたと思い心より喜び待っていました。

しかし、キムはホテルで、クリスがアメリカ人女性と結婚している事を知り、深い絶望に陥り、せめて子供だけはアメリカ人として育てて欲しいと伝え、子供をクリスにゆだねる手段として自分は自らの命を拳銃でたつのであった。

I ' m give my life for you

この物語は、母親の子を思う愛、そして究極の自己犠牲、そして戦争による悲劇、まさに背中がぞくぞくする感動を得ました。また舞台装置が素晴らしく、6メートルはあろうかと思われる巨大なホーチミンの像、本物のキャデラック、実物大のヘリコプターが舞台にでできます。機会がありましたら是非観て下さい。

今まであげたミュージカルはすべてブロードウェイ、ロンドンでつくられた向こうのミュージカルです。日本でも昔から日本人の手によるミュージカルが上演されていました。

それは、1913年に阪急電鉄の創立者小林一三によりつくられた宝塚歌劇団です。この劇団の素晴らしいところは、音楽、脚本、振り付け等すべて日本人の手による作品であるということです。そして歌が耳にすんなりとわかりやすく入ってくる事です。代表的作品ベルサイユのバラより愛あればこそ

愛あればこそ

次に小林一三をしのび、小林一三の教えを唄った歌

清く正しく美しく

昨年のお阪でのロータリーの国際大会の際、水野御夫妻、松葉義之御夫妻、そして私共夫婦の3組で宝塚を観劇しました。真摯な態度で汗まみれになってやっている舞台に感動しました。

今日はミュージカルについてお話しましたが、いつまでも感動する心を失わないようにしていただきたいと思います。

感動にはいろいろあると思います。例えば、おいしい物を口にした時、いい女に出会った時、自然の風景に対して、そして私が話した映画、舞台を観ての時といろいろあると思います。

年をとっても感動する心を持ち続け、そして人生どれだけの数の感動を得るかによってその人の人間としての価値がでてくるのではないのでしょうか。そして、他人を感動させる人になっていただきたいと思います。

(担当 / 青島克)